



「未来さわやか・・・」

自然と共生する

あぶくま拠点都市

の実現に向けて⑥

環境負荷の少ないまちづくり循環型社会の形成に向けて

## はじめに

この広報紙がみなさんの手元に届く頃は、山々の木々もすつかり落葉し、紅色から白銀の世界へと移り変わっていることでしょう。

森林が町の面積の約7割を占める小野町では、自然の移り変わりを色濃く観ることが出来ます。町民歌や学校の校歌にも矢大臣山、高柴山、杉の本杉の梢、夏井川、桜花、つつじなど、現在の小野町を象徴する自然の資源が登場します。それだけ、町の歴史を築いてきた先人達の生活と自然が密接な関係にあることが伺い知れます。

「未来さわやか・・・自然と共生するあぶくま拠点都市」は、21世紀初頭の小野町の理想像です。私たちは、先人から受け継いだ豊かな自然資源を、次代へと繋いでいく重要な役割を担っています。しかし、私たちは今、自然と共生していると言えるでしょうか。今の生活が地域の環境に、どのような影響を与えているのか、身近なところから点検し、自然と共生するために何が出来るのか、何が必要なのかを共に考えていきましょう。